



令和3年4月15日（毎週木曜日発行）（週刊）

トイレトレーラー

災害時のトイレ不足解消へ

北陸・県内での導入は初

市は先般、新たに導入した「トイレトレーラー」を報道陣に公開した。18日の刈谷田川ハーブマラソン大会・市民マラソン大会で初めて使用する。災害発生時に被災地の深刻な問題となるトイレ不足に対処するため、市内で災害が発生した場合に避難所で使用するとともに全国の各地で災害が起きた際には現地にかけて支援に当たり、市内のイベントなどにおいても活用するとしている。（M）

市内災害時に避難所で使用

被災地にかけて支援も

被災地のトイレ不足は深刻な問題で、避難先から危険な自宅に戻ったり、水分摂取を我慢するなど、二次災害や災害関連死につながる恐れがある。

トイレトレーラーの導入は、（一社）助け合いジャパン（石川淳哉代表理事）が呼び掛ける「災害派遣トイレネットワークプロジェクト」の「全国の市町村が1台ずつトイレトレーラーを配備し、被災地に全国から速やかに集結できたなら、災害

時のトイレ不足問題を大きく解消できるはず」としたコンセプトに賛同したもので、導入は全国13番目で北陸地方及び新潟県では初めて。

導入費用2230万円は、償還時に70%が地方交付税に算入される緊急防災・減債事業債の活用と、全国に寄付を呼び掛けたクラウドファンディングによる市内外からの寄付1165万5千円（176件）により、市の実質的な負担はほぼゼロ

となっている。

トレーラーは既存の公用車（ハイエース）にけん引パーツを取り付けて運行し、4室の広々とした洋式の水洗トイレは暖房便座、洗面台、化粧鏡を備え、着替えや授乳などにも利用できる。1200から1500回分程度の使用が可能な清水タンクと汚物タンクを装備。

トレーラーの上に設置した太陽光パネルによる発電・充電システムで照明や換気扇を動作させ、携帯電話の充電にも対応でき、寒冷地仕様で外部電源による凍結防止電熱線も備えている。

ラッピングデザインには、被災地で少しでも気持ちが明るくなるようにとみつけイングリッシュガーデンの写真を使い、見附市の位置を地図で示し、見附のイメーჯキャラクター「ミッケ」も表示している。

久住市長は「災害時相互応援協定を結んでいる自治体に紹介したり、県内自治体も導入の検討を要請し、近隣の自治体を持ち合うことになればありがたい」、石川代表理事は「大きな災害はいつ起きても対応できる体制を取り続ける」と話した。